

# 高等教育機関におけるオンライングローバル教育の実践

著者	笠井 正隆
雑誌名	研究論集
巻	116
ページ	199-212
発行年	2022-09
URL	<a href="http://doi.org/10.18956/00008052">http://doi.org/10.18956/00008052</a>

# 高等教育機関におけるオンライングローバル教育の実践

笠井正隆

## 要旨

2020年度に実践したオンラインでのグローバル教育実践の効果と課題を報告する。本コース（履修者数20名）の全授業数の内15レッスンで「グローバルな視野」を育成するためのオンライングローバル教育を反転授業形式で実施し、履修者のグローバルな学びに対する効果、効率、魅力を検証した。プリテスト・ポストテスト、振り返りノート、アンケート、そしてMoodleの統計データを分析した。結果、本コース全体で「グローバルな視野」の全ての中心要素の学修機会を確保できており、特に各授業の学修活動が、概ね目的の中心要素の内容を履修生に学ぶ機会を与えていたことが明らかとなった。さらに対面授業と比べて学修内容を学ぶために費やす時間の点で高い効率性が認められ、比較的高い水準で魅力的な授業提供ができていた。課題としては、履修生の反転授業やオンライン授業への混乱やZoomによる協働学修活動実施の困難さが挙げられた。

キーワード：グローバル教育、オンライン授業、インストラクショナルデザイン

## 1. はじめに

2019年末に中国の武漢市から広まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、瞬く間に国境を越え世界中に蔓延し、2020年3月世界保健機構（WHO）がパンデミックを宣言するに至った。このパンデミックによって、我々は感染予防のためのマスクの常時着用、頻繁な手のアルコール消毒、そして距離を置いての会話など日常生活のあらゆる場面での変化を余儀なくされることとなった。また、ビジネスの場面でも自宅勤務を含みモートワークやオンライン会議の増加など枚挙にいとまがない。新型コロナウイルス感染拡大前に比べ異なる新しい生活様式を送る必要が出ており、「ニューノーマル」という言葉が脚光を浴びる結果となった。このパンデミックは、当然教育の分野にも多大な影響を与えている。例えば、日本政府は2020年3月2日から春休みの期間、小学校、中学校、高等学校、そして特別支援学校の臨時休校を要請し、さらに4月7日に7都道府県、4月16日には全国まで拡大して緊急事態宣言を発令したことに伴い、全国の生徒・学生は自宅待機を余儀なくされ、オンライン教育を中心とした遠隔授業が展開された。高等教育機関でも、年度初めの時期を変更したり、対面授業からオンライン授業に切り替えたりとその対応に追われた。こうした流れを受けて、2020年度春学期に開

講された筆者のグローバル教育入門コースもオンラインで実施することとなった。本稿ではそのオンラインで実施したグローバル教育実践とその課題を報告する。

## 2. 「効果的、効率的、かつ魅力的なグローバル教育実践」プロジェクト

筆者が2016年度より進めている「効果的、効率的、かつ魅力的なグローバル教育実践」プロジェクトは、インストラクショナルデザイン理論（ADDIE プロセス<sup>1)</sup>）を採用し、グローバル教育で育成目的としている「グローバルな視野」の中心要素<sup>2)</sup>を効果的、効率的、かつ魅力的に獲得できるコースデザインとその実践を目的としている（笠井・森田, 2018）。まず2016年度には、筆者の所属する教育機関の教育環境と学修者の特徴を分析（Analysis）し、「グローバル教育コース」（15レッスン・各レッスン90分）を想定し、学修者が効果的、効率的、かつ魅力的に「グローバルな視野」を獲得することができるコースを反転授業形式で設計（Design）した。反転授業とは、授業と宿題の役割を「反転」させる形態を指し、授業前に宿題として学習内容の知識を習得させ、授業では獲得した知識を確認したり、深めたりする学習活動を行うのが一般的である。この反転授業形態の特徴を踏まえ、本オンラインコースでは、「グローバルな視野」中心要素の内容を事前にE-ラーニング課題として講義を受講し、学修内容に関する

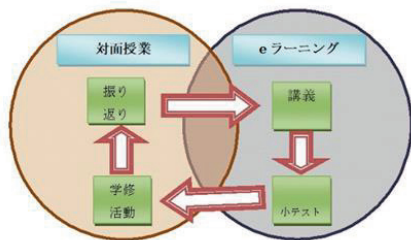


図1. 反転授業モデル

小テストを解答して対面授業で答え合わせを行うことで知識定着を図り、さらに対面授業では事前課題で獲得した知識を活用・深化させる様々な学修活動に取り組み、最後に授業での学びの振り返りを行う流れである（図1参照）。2017年度では、前年度の反転授業モデルを適切に実施するために、開発

（Development）段階として、「グローバルな視野」の中心要素の内容を文章化したテキスト「地球に住む仲間として」を作成し、その内容をテキスト（PDF）、音声（MP3）、そしてテキスト・音声

（Scorm Package）の3種類のメディア形式で講義用教材としてオープンソース学習管理システム（LMS）のMoodle（<https://moodle.org/>）へ実装した。同時に、「グローバルな視野」の中心要素の学修内容に関する小テストをPDFで作成し、それをMoodleに実装した。そして、前年度実施した研究の結果から高い効果・効率・魅力を示した学修活動を抽出して、15レッスンからなるレッスンプランも作成した。最後に、開発したマルチメディア教材を活用して反転授業を実施し、その評価（Evaluation）も行った。結論として、本プロジェクトで開発したメディア教材を活用した反転授業形式によるグローバル教育実践は、ある程度の効果、効率、魅力が認められた（笠井・森田, 2018）。その後、改善を加える形で対面授業の終わりに課して

いた振り返り活動を紙面のレポート形式から Moodle 上で入力する形式に変更したが、紙面形式と同等の教育的効果が認められた (Kasai, 2019)。つまり、2019年度時点のグローバル教育入門コースは、対面授業で実施していた学修活動以外の全ての活動がオンライン上ですでに実施されており、その教育的効果が認められていた。

### 3. 研究概要

前述のプロジェクトでこれまで唯一対面授業で実施していた学修活動も含め2020年度は全面オンラインでの実施となった。従って、本研究で明らかにしようとする研究課題は以下の2つである。

課題1. 全面オンラインでのグローバル教育実践は、履修生のグローバルな学び<sup>3)</sup>に対してどの程度の効果・効率・魅力を生み出したのか。

課題2. 全面オンラインでのグローバル教育実践による履修生のグローバルな学びを阻害する要因は何なのか。

#### 3.1 研究対象コース

グローバル教育入門コースは、2010年度から開講されているコースであり、全ての授業を英語で行い、「グローバルな視野」育成を主な目的としている。2020年度の当該コースを履修した学生は20名（内訳：4回生9名・3回生11名、男性7名・女性13名）であった。また、本コースが開講された春学期は15週間から11週間に短縮されたため、週2回の90分授業が計22回行われた。その内の15レッスン（レッスン2～レッスン16）で「グローバルな視野」の6つの中心要素の育成を試みた。この15レッスンは、Moodle による事前学修活動に7レッスン、そして残りの8レッスンをビデオ会議システムである Zoom (<https://zoom.us/>) を活用した同期型授業に費やした。このオンラインでのグローバル教育の授業は、前述の反転授業モデルを踏襲して実施したもので、Zoom 授業の前に履修生に Moodle で学修内容を学ばせ、その後当該学修内容に関する小テストを解答させた。なお、この小テストは以前の PDF 形式ではなく、Moodle のクイズ機能を活用して作成し直したため、履修生は Moodle 上で解答が完了すれば正解・不正解を即座に確認することができた。また、知識の定着を目的としているため、この小テストは何度でも取り組めるようにした。プリテスト・ポストテストはこの小テスト全ての問題を網羅した内容であり、受験機会はそれぞれ1回のみとして、これも Moodle 上で解答させた。Zoom 授業では、Moodle での事前学修内容を応用・深化する目的で、対面授業時に採用していた学修活動を最大限採用したが、オンラインの同期型授業の特質上実施が不可能、又は実施可能であっても教育的効果が低くなることが予想される活動は、他の学修活動に変更し

た（付録1を参照）。例えば、世界各国の経済的不均衡について学ぶために、対面授業では「貿易ゲーム」というシミュレーション活動を実施していたが、この活動はグループ内で「モノ」を作ったり、グループ間で資材や道具の貸し借りをしたりする作業が含まれるため、当該オンライン授業では実施困難と判断して採用しなかった。そして、Zoom授業後に当該授業に関する振り返りをMoodleのフォーラム機能を活用して投稿させ、その後他の履修生の投稿文を読ませて、少なくとも2人の投稿に対して返信させる流れとした（図2参照）。

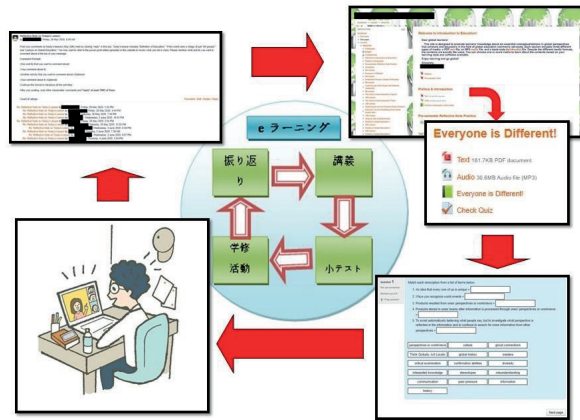


図2. オンライングローバル教育の反転授業モデル

### 3.2 データ収集・分析

上記の2つの研究課題を検証するために、プリテスト・ポストテスト、振り返りレポート、アンケート、そしてMoodleの統計データを本研究データとして採用した。まず、履修生の「グローバルな視野」の中心要素に関する知識獲得度を検証するために、本コース開始前と後に行ったテスト結果をSPSS Statistics 27を使いウィルコクソン符号付順位検定で分析した。また、Zoomでの同期型授業での履修生の「グローバルな視野」の中心要素の学びを検証するために、各Zoom授業後に課したMoodle上での振り返りレポートの記述内容を佐藤（2008）が提唱する定性的コーディング手法で、定性的データ分析ソフトであるQSR InternationalのNvivo11と樋口耕一氏によって開発されたKh-coderを併用してテキスト分析を行った。さらに、本コース終了後に実施したアンケートの結果（付録2参照）や履修生のMoodleへのアクセスデータから、オンラインでのグローバル教育実践や履修生の学びへの認識やその学びを阻害する要因を探った。

## 4. 分析結果と考察

本欄では、オンラインでのグローバル教育実践による履修生のグローバルな学びに対する効果・効率・魅力とオンラインでのグローバル教育実践の課題に関する分析結果ならびに考察を述べる。

### 4.1 履修生のグローバルな学びに対する効果・効率・魅力（研究課題1）

まず、履修生の「グローバルな視野」の6つの中心要素に関する知識獲得度を検証するために、プリテスト・ポストテスト（66点満点）の両テストを受験した計18名分の成績（付録3参照）をウィルコクソン符号付順位検定で分析した。その結果、両テストとの間で中央値に1%水準で有意差（表1参照）がみられた。

さらにその効果量を測定したところ  $\Delta = 3.41$  と効果量大であった。

次に、Zoom 授業でのグローバルな学びを検証するために受講生の振り返りノートの記述内容を分析した結果を

100%積み上げ棒グラフに示したのが表2となる。このグラフは、各中心要素を主に育成するための授業後に入力させた振り返りノートでどの中心要素に関する記述をどの程度していたかの

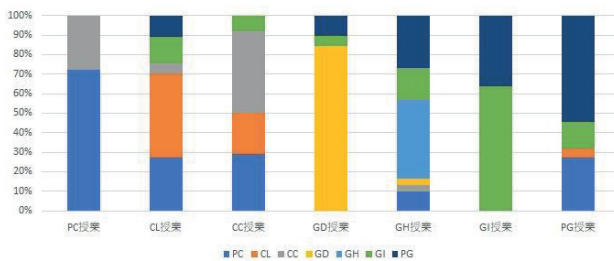
表1. ウィルコクソン符号付順位検定 (n=18)

	プリテスト	ポストテスト	
テスト結果	中央値	18.0	62.5
	標準偏差	11.10	13.61

Z=-3.73\*

\* $p < 0.01$

表2. Zoom授業の学修度



の構成比を異なる色で表している。

全てのZoom授業を俯瞰すると、6つの中心要素全てに関する記述があり、Zoom授業が履修生に全ての中心要素を学ぶ機会を与えていたことが明らかとなった。加えて、各授業で複数の中心要素に関する言及があったことから、各授業の学びの汎用性の高さが示されたと考える。

また、各中心要素育成を目的とする授業内では、当該中心要素についての言及が比較的多くを占めていることから、Zoom授業での学修活動が、概ね目的とする中心要素の内容を履修生に学ぶ機会を与えていたようである。なお、この点の定性データ分析結果の妥当性を検証するために、同じデータをKh-coderを使用して各中心要素の学びとして設定した語句<sup>4)</sup>の出現頻度を自動分析させ、その結果をバブルプロット図に表した(図3参照)。このバブルプロット図は、各中心要素に関する語句の出現頻度が多ければ多いほど円が大きくなる。特に、赤で囲んだ箇所は各授業で育成目的としている中心要素に

関する語句の出現頻度を示しており、他の中心要素に関する言及数より比較的多く、前述の筆者の分析結果と同様の傾向が見られたことから、上述の分析結果の妥当性が確保されたと考える。

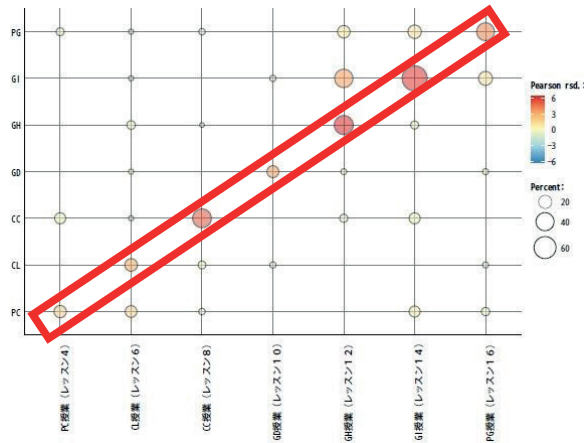


図3. 各レッスンにおける中心要素関連語句の出現頻度

今回実施したオンラインでのグローバル教育実践では、一定の教育的効果が認められたが、その要因としてインストラクショナルデザイン理論 (ADDIE モデル) を通して構築したグローバル教育コースが機能したことがその一因として挙げられる。つまり、教育環境、当該コース、履修生等の特徴を総合的に分析し、学びを最大限生み出すことを念頭にコース設計や教材開発を行い、設計に基づき授業を実施した結果がこの教育的効果に結び付いたと考える。さらに、この結果には ICT の活用も大きく起因していると考ええる。まず、Moodle での事前学修内容を基に Zoom 授業で各履修生にさらなる学びを促していたことは、Bergmann と Sams (2015) の指摘にあるように Zoom 授業でより多様な学修活動をより多くの時間を確保して履修生が取り組めたことが、「グローバルな視野」中心要素に関する学修効果を高めた要因であろう。さらに、Moodle 上での学修活動と Zoom 授業のそれぞれで学修効果がみられたが、この 2 つの学修形態の有機的な連携も学修効果を高める要因であったようである。Moodle での事前学修活動と Zoom 授業がコースでの学びに役立ったかをアンケートで尋ねたところ、80% (15名中 12名) の履修生が「とても役に立った」または「役に立った」と回答していた。この結果は、宮地ら (2009) が指摘しているように、反転授業に含まれる Moodle 学修活動と Zoom 授業の「効果的な学習の分業」(p.98) がなされ、且つお互いの学修活動が相乗的に受講生の学びを促進した結果と考える。

次に、効率の面においては対面授業と比べて履修生の学修時間の点で高い効率性を確保できたと考ええる。まず、講義、小テスト、そして振り返りを Moodle 上で実施したため、インターネッ



トへのアクセスがあれば、いつでもどこでも取り組めるといった学修環境を履修生に提供することができた。下表は、Moodle に履修生がアクセスした頻度を曜日別・時間帯別で示した表である。曜日別では、Zoom 授業が実施された金曜日の前日の木曜日がアクセスのピークであるが、他の曜日でもアクセスは確認されている。また、時間帯別では午前4時・午前5時の時間帯ではほとんどアクセスがない中、それ以外の時間帯では履修生がアクセスしている状況が明らかである。

表3. 履修生のアクセス数（曜日別）

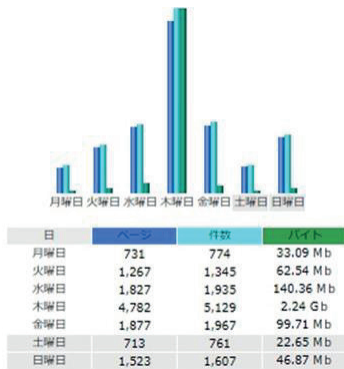
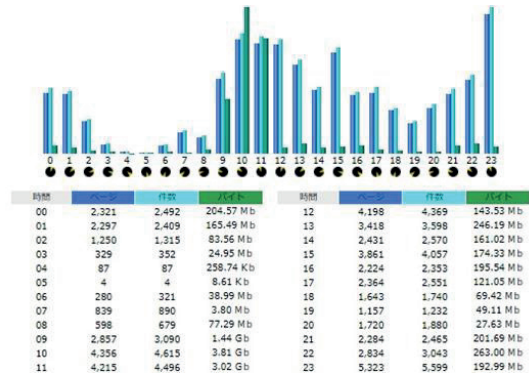


表4. 履修生のアクセス数（時間帯別）



加えて、授業計画当初に1授業時間と同等の90分の学修時間を要すると予測していた事前学修活動であるが、アンケートによれば、15名中12名が平均30分から60分以内で完了したと回答しており、履修生が効率良く完了させていたと言える。この結果は履修生の多様な学修スタイルに対応し、いつでもどこでも好きなペースで学修に取り組めるといった高い柔軟性が生み出したものと考えられる（鄭・久保田・鈴木、2008）。加えて、小テストと振り返りレポートの完了率（付録3参照）が、それぞれ約99%（7回中平均6.95）と約92%（7回中6.45）であったことから、履修生がMoodle上で学修活動を問題無く完了していたことも特筆に値する。

最後に、オンラインでのグローバル教育を通しての履修生の学びを魅力の観点からフロリダ州立大学のジョン・ケラー教授のARCSモデルを採用して検証した。このARCSモデルは学習意欲を高める又は維持するために必要な要因を4つに分類したインストラクショナルデザインモデルの一つであり、特に教育実践の魅力を扱ったものである（ケラー、2010）。その4つの要因とは Attention（注意）、Relevance（関連性）、Confidence（自信）、Satisfaction（満足感）を指し、その頭文字をとってARCSモデルと名付けられている。このARCSモデルの4要素を問う設問をアンケートで履修生に回答させた。注意に関する設問（本コースは、グローバル教育により興味を湧く手助けとなりましたか。）、関連性の設問（本コースでの学修内容が、自分自身や日常生活に関連しているとより感じる手助けとなりましたか。）、自信の設問（本コー



スでの学修内容を、自分自身や日常生活に応用する自信がよりつく手助けとなりましたか。)、満足感の設問(本コースでの学びに満足していますか。)で、それぞれほぼ全ての回答者が「強く同意します。(Strongly agree)」又は「やや同意します。(Somewhat agree)」と回答していた。つまり、このオンラインでのグローバル教育実践では比較的高い水準で魅力的な授業提供ができていたことが明らかとなった。こうした魅力的な授業提供は、対面授業で行っていた一斉講義を、各自の学修スタイルに合わせて学べる Moodle 事前学修活動に変更したことや、「魅力的である」とすでに実証済みのかつて対面授業で実施していた学修活動(笠井, 2018)を Zoom 授業で数多く採用したことが要因であると考えられる。

#### 4.2 オンライングローバル教育の課題(課題2)

今回のオンラインでのグローバル教育実践は、履修生のグローバルな学びに対する効果、効率、そして魅力の点である程度認められる結果となったが、いくつかの課題も浮かび上がった。まず、アンケートで4つの学修活動を取り入れた授業手順の難易度を尋ねた設問では、約半数(15人中7名)が「難しい(Difficult)」と回答しており、反転授業の流れ自体や4つの全ての学修活動をオンラインで受講することに戸惑っていることが見て取れた。この結果は、履修生がこれまで対面授業で基礎的学修内容を講義形式で学び、その学びを応用する目的で宿題や課題等を授業外で取り組むといった従来型の学修プロセスに慣れており、それを反転させる授業形式に不慣れであった可能性があることや、コロナ禍によって授業形態が対面授業から急遽オンライン授業に変更になったことで、オンライン授業に参加すること自体に戸惑いが生じていたことが考えられる。さらに、事前学修活動と小テストを完了させるレッスンでは、ほとんどの学生が90分以内で完了させていたが、1名だけ90分を超えていた。これは、オンライン上でのグローバル教育実践において筆者が当該履修生への個別対応が不十分で、その履修生の孤立が起こっていた可能性がある(宮地他, 2009)。最後に、Zoom 授業でブレイクアウトセッション機能を活用して様々なグループ活動を実施したが、対面授業時のように各グループの進捗状況や各履修生の参加度を一度に確認することができなかったため、各グループでどれほどの協働学修が行われていたのかを随時確認することは困難であった。

これらの課題の対処法としては、オンライン授業の中で最大限の時間を割いて教員と履修生、そして履修生間の関わりを最大限持たせることが重要であると考えられる。例えば、グループ活動中に進捗状況を把握するために活動始めに1回だけ各グループを訪問してグループ活動内容の確認を行っていたがその回数を増やしたり、グループ活動前にグループ内のメンバーにそれぞれリーダー、書記、タイムキーパー、そして報告者などの役割を決めさせて、グループ活動に多様な形でかつはっきりとした役割を持って参加できる環境を整えたりすることが有効であろう。

## 5. 本研究の限界

本研究では、2020年度に実施した全面オンラインでのグローバル教育実践の効果検証を目的とし、ある程度の肯定的な結果が認められた。しかし、このオンライングローバル教育の試みは2020年度だけの実践であることから、別の年度でも同様の検証を実施して本実践の再現性や本研究結果の妥当性を確認する必要がある。また、履修生のグローバルな学びの知識面ではテスト形式でその獲得度は把握できたが、「視野」の認識や異文化間コミュニケーション能力などの認識や技術面においては、振り返りレポートの関連語句の出現頻度のみでその学びを判断しただけであったため、その獲得度までは検証することができなかった。これらは今後の研究課題としたい。

## 6. おわりに

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大により日本の全ての教育機関でその対応に追われた。筆者の担当したグローバル教育入門コースも全面オンラインでの実践となった。本コースの履修生のグローバルな学びの効果、効率、そして魅力を一定程度確保することができた半面、履修生の授業形態への取り組みの困難さ、履修生の孤立、さらに Zoom 授業でのグループ活動の進捗状況や各履修生の参加度合いの把握の困難さといった課題も生じていた。今後は、これらの課題を踏まえて、履修生のグローバルな学びの効果、効率、かつ魅力をさらに向上させるグローバル教育実践を模索していきたいと考える。

### 注

- 1) ADDIEモデルとは、インストラクショナルデザイン理論の一つである。元来インストラクショナルデザインは、第二次世界大戦中の米軍の軍事訓練を効率的かつ効果的に行うことを目的に確立されてきた手法である。鈴木（2005）は、インストラクショナルデザインを「教育活動の効果・効率・魅力を高めるための手法を集大成したモデルや研究分野、またはそれらを応用して学習支援環境を実現するプロセス」（p.197）と定義している。インストラクショナルデザイン活動を Analysis（分析）、Design（設計）、Development（開発）、Implementation（実装）、Evaluation（評価）の5つの段階に分けて、その頭文字をとってADDIEモデルと呼ばれている。
- 2) 本研究における「グローバルな視野」とは、(1)「見方」の認識（PC）、(2) 異文化学習（CL）と異文化間コミュニケーションスキル（CC）、(3) 地球的相互依存関係（GD）、(4) グローバル史（GH）、(5) グローバルな問題（GI）、(6) グローバル社会への参加（PG）の6つの中心要素を指す。各要素

の詳細は笠井（2009）を参照。

- 3) 本研究によるグローバルな学びとは、グローバルな視野の6つの中心要素の知識・技術・態度の獲得度を指す。
- 4) Kh-coderに設定した各中心要素に関する語句は以下の通りである。

中心要素	コーディング設定語句
PC	perspective   view   critical   power   multiple
CL	diverse   stereotype   prejudice   discrimination
CC	communicate   miscommunication   opinion   debate   discuss
GD	connect   link   depend   rely   web
GH	future   cause   effect   result   consequence
GI	problem   issue   peace
PG	action   solve   change   participate   sort   cooperate

### 参考文献

（日本語文献）

笠井正隆（2009）‘アメリカのグローバル教育が目指す地球市民の特性と実践’ *グローバル教育*, 11, pp. 38-48.

笠井正隆（2018）‘効率的、効果的、かつ魅力的な学修活動とは？—「グローバル教育入門」コースのケース— *高等教育論集*（関西外国語大学）, 7, pp. 72-82.

笠井正隆・森田健宏（2018）‘効果的、効率的、かつ魅力的なグローバル教育実践調査報告と今後の展望’ 第26回日本グローバル教育学会全国研究大会（京都教育大学）.

ケラー M. ジョン（2010）*学習意欲をデザインする：ARCS モデルによるインストラクショナル デザイン*. 京都府：北大路書房.

佐藤郁哉（2008）*質的データ分析法*. 東京：新曜社.

鈴木克行（2005）‘e-Learning実践のためのインストラクショナル・デザイン’ *日本教育工学会論文誌*, 29 (3), pp. 197-205.

鄭仁星・久保田賢一・鈴木克明（編）（2008）*最適モデルによるインストラクショナルデザイン—ブレンド型 e ラーニングの効果的な手法—*. 東京：東京電機大学出版.

宮地功・安達一寿・内田実・片瀬拓弥・川場隆・高岡詠子・立田ルミ・成瀬喜則・原島秀人・藤代昇 丈・藤本義博・山本洋雄・吉田幸二（2009）*eラーニングからブレンディッドラーニングへ*. 東京：共立出版.

（外国語文献）

Bergmann, Jonathan and Sams, Aaron (2015) *Flipped learning for social studies instruction*. Washington, DC: International Society for Technology in Education.

Kasai, Masataka. (2019). 'Investigating the Effects of the Threaded Discussions on University Students' Global Learning: A Case of Introduction to Global Education Course' at the 2019 International Society for the Social Studies Annual Conference, Florida, U.S.A.

付録

付録 1. 事前学修内容とZoom授業での学修活動

レッスン	ムードルでの事前学修内容	Zoom授業での学修活動	データ
			データ プリテスト
2*		「教育」の定義付け、世界人口、もしも世界が100人の村だったら活動、グローバル教育の紹介	振り返りノート
3	Everyone is Different! (「見方」の認識)		
4		【「視野」の認識(PC)授業】 Drawing活動、2匹のアザラシ活動、世界地図活動、What do I Value?活動、Reading活動	振り返りノート
5	Understand Diverse Cultures Profoundly! (異文化理解)		
6		【異文化理解(CL)授業】 Dead Poets Society視聴、Best World or Worst World活動、Sinking Ship活動、Country Perception Map・Spiral of Discrimination紹介、Second Class Citizen活動、バンクシーの芸術作品紹介、コロンブス像破壊のニュース視聴	振り返りノート
7	Communicate With People With Different Cultural Backgrounds Effectively! (異文化間コミュニケーションスキル)		
8		【異文化間コミュニケーションスキル(CC)授業】 デベート活動	振り返りノート
9	The World is Interconnected in Space! (地球的相互依存関係)		
10		【地球的相互依存関係(GD)授業】 But We're Speaking Japanese! ビデオ視聴、Reading活動、My Global Connection活動、The World in Your Possessions活動、自給率(石油、食物、エネルギー)の紹介、Connectography紹介	振り返りノート
11	The World is Interconnected in Time! (グローバル史)		
12		【グローバル史(GH)授業】 Webbing活動、3つの未来紹介、What Can You Do?活動	振り返りノート
13	Global Issues Are Not Someone Else's Problem! (グローバルな問題)		
14		【グローバルな問題(GI)授業】 Peace Messages紹介	振り返りノート
15	Everyone Can Do Something About Global Issues! (グローバル社会への参加)		ポストテスト・アンケート
16		【グローバル社会への参加(PG)授業】 Sort Out活動、Pay It Forward視聴、9 Dots活動	振り返りノート

\*レッスン 1 は、コース紹介のみであった。

## 付録2. アンケート結果

Questionnaire (n=15)

- Which tool did you mainly use to take this online global education course?

13	Personal computer	0	Smart phone	2	Tablet PC (e.g., iPad)	0	Others
----	-------------------	---	-------------	---	---------------------------	---	--------

- Where did you usually take this online global education course?

14	Home	0	Campus	0	Public transportation (e.g., bus, train)	1	Others
----	------	---	--------	---	---	---	--------

- How was the overall process of taking this online global education course (moodle task-check quiz-zoom lesson-reflective note)?

1	Very easy	0	Easy	7	Neutral	7	Difficult	0	Very difficult
---	-----------	---	------	---	---------	---	-----------	---	----------------

- [Moodle Task] Which medium did you mainly use to complete moodle tasks?

7	PDF (Text)	0	MP3 (Audio)	8	Book style (Text & Audio)
---	------------	---	-------------	---	---------------------------

- [Moodle Task] How was the process of completing moodle tasks?

1	Very easy	2	Easy	11	Neutral	1	Difficult	0	Very difficult
---	-----------	---	------	----	---------	---	-----------	---	----------------

- [Moodle Task] On average, how long did it take to complete ONE moodle task?

1	Within 30 minutes	12	31 minutes to 60 minutes	1	61 minutes to 90 minutes	1	Over 90 minutes
---	-------------------	----	--------------------------	---	--------------------------	---	-----------------

- [Moodle Task] How were the contents of the media for moodle tasks?

0	Very easy	5	Easy	9	Neutral	1	Difficult	0	Very difficult
---	-----------	---	------	---	---------	---	-----------	---	----------------

- [Moodle Task] How helpful were the moodle tasks to your overall study in this course?

10	Very helpful	2	Somewhat helpful	3	Neutral	0	Not so helpful	0	Not helpful at all
----	--------------	---	------------------	---	---------	---	----------------	---	--------------------

- [Moodle Task] How was the process of completing check quizzes?

2	Very easy	5	Easy	7	Neutral	0	Difficult	1	Very difficult
---	-----------	---	------	---	---------	---	-----------	---	----------------

- [Moodle Task] How were the contents of the check quizzes?

1	Very easy	3	Easy	9	Neutral	2	Difficult	0	Very difficult
---	-----------	---	------	---	---------	---	-----------	---	----------------

- [Reflective Note] How was the process of completing reflective note assignments (posting your message-reading your classmates' messages-responding to your classmates' messages)?

3	Very easy	2	Easy	7	Neutral	2	Difficult	0	Very difficult
---	-----------	---	------	---	---------	---	-----------	---	----------------

- [Reflective Note] How helpful were the reflective note assignments to your overall study in this course?

9	Very helpful	3	Somewhat helpful	3	Neutral	0	Not so helpful	0	Not helpful at all
---	--------------	---	------------------	---	---------	---	----------------	---	--------------------

- [Zoom Lesson] How was the process of joining zoom lessons?

6	Very easy	4	Easy	5	Neutral	0	Difficult	0	Very difficult
---	-----------	---	------	---	---------	---	-----------	---	----------------

- [Zoom Lesson] How were the contents of the zoom lessons?

0	Very easy	3	Easy	10	Neutral	2	Difficult	0	Very difficult
---	-----------	---	------	----	---------	---	-----------	---	----------------

- [Zoom Lesson] How helpful were the zoom lessons to your overall study in this course?

12	Very helpful	1	Somewhat helpful	2	Neutral	0	Not so helpful	0	Not helpful at all
----	--------------	---	------------------	---	---------	---	----------------	---	--------------------

- [Your Study] Do you think that this course so far help you to become more interested in global education?

12	Strongly Agree	2	Somewhat Agree	1	Neutral	0	Somewhat Disagree	0	Strongly Disagree
----	----------------	---	----------------	---	---------	---	-------------------	---	-------------------

- [Your Study] Do you think that this course so far help you connect what you learned to you or your daily life better?

11	Strongly Agree	4	Somewhat Agree	0	Neutral	0	Somewhat Disagree	0	Strongly Disagree
----	----------------	---	----------------	---	---------	---	-------------------	---	-------------------

- [Your Study] Do you think that this course so far help you to become more confident in applying what you learned to you or your daily life?

10	Very confident	4	Somewhat confident	0	Neutral	1	Not so confident	0	Not confident at all
----	----------------	---	--------------------	---	---------	---	------------------	---	----------------------

- [Your Study] Do you think you are satisfied with what you learned so far?

10	Satisfied very much	4	Somewhat satisfied	0	Neutral	1	Not so satisfied	0	Not satisfied at all
----	---------------------	---	--------------------	---	---------	---	------------------	---	----------------------



## 付録3. 履修生課題結果

学生\学修課題	プリテスト	ポストテスト	振り返り活動(全7回)	確認テスト(全7回)
学生 1	19	65	7	7
学生 2	31	66	7	7
学生 3	12	47	5	7
学生 4	25	48	5	6
学生 5	29	65	7	7
学生 6	29	66	7	7
学生 7	未受験	66	7	7
学生 8	1	20	5	7
学生 9	30	60	6	7
学生 10	11	58	7	7
学生 11	未受験	65	7	7
学生 12	14	60	5	7
学生 13	34	66	7	7
学生 14	7	29	7	7
学生 15	34	66	7	7
学生 16	0	65	7	7
学生 17	13	46	5	7
学生 18	8	58	7	7
学生 19	23	66	7	7
学生 20	17	66	7	7

(かさい・まさたか 短期大学部教授)